



	講師：広島大学人間社会科学研究科教授 熊原康博	
9月13日	第6回東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）会議（北館）	5
9月22日	広島県郷土史研究協議会（県史協）臨地研修Aコース試歩	15
9月23日	広島県郷土史研究協議会（県史協）臨地研修Bコース試歩	12
9月28日	9月例会 臨地研修「三原市久井町・久井の牛馬市跡」大森美寿枝	24
9月吉日	「創立50周年記念誌 50年の歩み」刊行（134ページ）	400部
10月26日	10月例会「県史協東広島市大会 最終打合せ・確認作業」	24
11月4日	第3回東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）会議（北館）	5
11月9日	第46回広島県郷土史研究協議会東広島市大会開催（くらら小ホール）	258
11月	11月例会 郷土史展は県史協大会（東広島市大会）と重なるため中止	
12月4日	第7回東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）会議（北館）	4
12月13日	12月例会「県史協東広島市大会を振り返る」県史協実行委員会	24
1月9日	新春登山「白鳥神社・巴神社」 福村博士	13
1月19日	歩く会 協賛団体との合同実行委員会（大会協力・協賛金）	3
1月25日	1月例会「志和の標柱」今田幸博	
1月30日	第4回東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）会議（北館）	4
2月2日	県史協本部事務所訪問（呉市広町名誉会長宅事務所）	4
2月24日	2月例会「古文書へのいざない」 近藤英治	25
3月6日	第8回東広島市郷土史研究会連絡協議会（市史協）会議（北館）	4
3月23日	3月例会「第39回史跡文化財を見て歩く会 見所紹介」矢原大和	26
創立50周年記念事業実行委員会	①創立50周年記念事業 県史協東広島市大会部会 5月25日、6月5日、6月13日、6月20日、6月24日、9月2日、9月9日、9月25日、10月26日 ②創立50周年記念事業 記念誌編集部会 4月12日、5月1日、5月13日、5月27日、6月11日、6月26日、7～8月グラブリ校正、9月2日校正終了	

## 研究会

古文書研究会	国郡誌御用書上帳奥屋村
巨樹植物研究会	休会中
石造物研究会	第3回東広島石造物探訪会（安芸津）現地学習・資料づ

	くり、臨地研修
四日市町並研究会	「酒都西條」研究・CD編集作業
昔の道探訪会	福富町久芳、河内町下河内、福山市松永はきもの資料館、高屋東探訪、座学
原爆資料保存研究会	被曝80周年記念事業の内容検討、「平和学習バス」引率

## 通年活動

文化財施設管理	旧木原家住宅、旧石井家住宅、三ツ城古墳の管理
会報発行	596号～607号
役員会	5月1日、7月27日、8月16日、12月9日、1月25日、3月23日
理事会	6月22日、2月22日
図書室開館	毎月第3金曜日13:00～15:00

## プレスネット連載

## 「つなぐ つながる つなげる東広島」

掲載月	シリーズ、テーマ	執筆者
1月	とんど	横川 知司
2～4月	酒蔵 I～III	松木津々二
5～7月	学校 I～III	國松 宏史
8～11月	東広島の山城 I～IV	天野浩一郎
12月	御建神社の石造物	大森美寿枝
1月	偉人賢人I 江木鰐水	吉田 泰義
2月	偉人賢人II 黒川三郎左衛門	吉本 正就
3月	偉人賢人III 沖田嘉市	國松 宏史

## 議題2 令和6年度会計報告

## 【収入の部】

項目	予算額	決算額
会費	444,000	457,000
雑収入等	90,000	185,777
資料代	25,000	19,300
返却金	112,668	112,668
計	671,668	774,745
繰越金	282,001	282,001
繰入金	0	529,729
合計	953,669	1,586,475

## 【支出の部】

項目	予算額	決算額
広報費	571,000	525,686
<ニュース印刷費	450,000	380,600
<ニュース発送費	105,000	130,126
<HP構築費	16,000	14,960
事業費	100,000	100,000
<郷土史展	0	0
<歩く会	50,000	50,000
<創立50周年記念事業	50,000	50,000
発表資料助成金	0	0
研修費	27,000	20,000
<臨地例会	10,000	10,000

〈新春の会	7,000	0
〈講演	10,000	10,000
施設使用費	92,730	87,250
〈図書保管庫賃貸料	65,000	59,520
〈くららホール	7,730	7,730
〈コジマヤ	20,000	20,000
事務用品費	50,000	50,680
負担金	18,000	18,000
通信交通費	5,000	14,842
備品費	0	0
光熱費	10,000	6,516
雑費	10,000	4,064
予備費	50,000	65,910
計	933,730	892,948
繰越金	19,939	693,527
合計	953,669	1,586,475

### 議題3 令和7年度活動計画

月日	活動内容
4月12日	令和7年度総会
4月29日	第39回東広島の史跡文化財を見て歩く会 (安芸津町三津地区)
5月18日	令和7年度東広島市郷土史研究会連絡協議会 (市史協) 総会 (市総合福祉会館)
5月22日	春の臨地研修 (大竹・岩国方面)
5月	広島県郷土史研究協議会 (県史協) 理事会 (くらら)
7月	広島県郷土史研究協議会 (県史協) 代表者会議 (くらら)
7月25日	平和学習バス
8月1日～7日	被爆80周年記念原爆展 (市民文化センター)
9月	第10回東広島市郷土史研究会連絡協議会 (市史協) 会議 (北館)
10月15日	第53回郷土史展 (くらら・市民ギャラリー) ～10月20日
10月26日	第47回広島県郷土史研究協議会 (県史協) 呉市大会
11月	第11回東広島市郷土史研究会連絡協議会 (市史協) 会議 (北館)
令和8年1月	新春登山、新年互例会
3月	第12回東広島市郷土史研究会連絡協議会 (市史協) 会議 (北館)
例会	毎月第4土曜日13:30-16:00、但し4月 総会、12月は第2土曜日
準備作業	第39回東広島の史跡文化財を見て歩く会 1月30日、2月4日、2月14日、3月10日、 4月8日、4月14日、4月21日、前日 準備4月28日 第53回郷土史展 7月から準備作業に入る

### 通年活動

会報発行	郷土史ニュース発行 (毎月5日)
------	------------------

役員会議	5/24、8/23、10/25、1/24、2/28 10:00～ (市役所北館市民協働センター)
理事会	6/28、11/22、3/28 10:00～ (市役所北館市民協働センター)
図書室開館	第3金曜日 13:00～15:00 旧 (高屋教育会館事務所)

### グループ研究会活動

古文書研究会	主幹：近藤 英治
巨樹植物研究会	休会中
石造物研究会	主幹：船越 雄治
四日市町並研究会	主幹：光田 清志
昔の道探訪会	主幹：吉田 泰義
原爆資料保存研究会	主幹：吉岡 真喜夫

### 議題4 令和7年度予算

#### 【収入の部】

項目	予算額	摘要
会費	462,000	会員数113名 (夫婦3組・学生2名) + 5名
雑収入等	90,000	
資料代	20,000	例会資料代 100円/回
計	572,000	
繰越金	693,527	前年度繰越金
合計	1,265,527	

#### 【支出の部】

項目	予算額	摘要
広報費	567,800	
〈ニュース印刷費	400,000	令和7年4月～ 令和8年3月
〈ニュース発送費	151,800	発送数：115通 (@110円)
〈HP構築費	16,000	システム利用料・独自 ドメイン料等
事業費	80,000	
〈郷土史展	30,000	助成金
〈歩く会	50,000	助成金
研修費	20,000	
〈臨地例会	10,000	謝礼 (2件)
〈新春の会	0	
〈講演	10,000	講師謝礼
施設使用費	66,650	
〈図書保管庫賃貸料	58,920	高屋堀教育集会所賃貸 料 (市役所)
〈くららホール	7,730	次年度郷土史展
〈コジマヤ	0	立ち退き撤去
事務用品費	55,000	
負担金	21,000	市観光協会、県史協会 費、市史協会費
通信交通費	5,000	
備品費	0	
光熱費	10,000	灯油代・教育集会所 使用電気料
雑費	5,000	

予備費	50,000	
計	805,450	
繰越金	460,077	
合計	1,265,527	

### 議題5 組織財政検討委員会の設置

#### 〔組織現状〕

1. 1974年7月の創立時55名、1988年には216名と4倍越え。以降、2005年頃まで150～200名をキープ、2006年からコロナ禍に入る2020年まで140名前後。
2. 会員構成の高齢化と2020年からのコロナ禍によって減少傾向が続き、2024年度当初には110人台まで減少。
3. 2024年度は「創立50周年記念運動」を通し16名と近年にない入会。一方、高齢化に伴う脱会希望者も増化。

#### 〔検討課題〕

1. 活動と組織の活性化および継続・継承にとって新規会員の獲得が必須で不断の努力が鍵。
2. 一方、雇用延長や高齢者雇用など社会環境の変化、生活様式と意識の変化などに伴い、入会年齢や階層の変化が生じており、アプローチについても創意・工夫が求められている。
3. 中期的な新規会員獲得の戦略、意識的・継続的な取り組みが必要。(ターゲット=年齢・層・地域)
4. 法人や団体を対象とした「賛助会員」制度を検討。

#### 〔財政現状〕

1. 会費は設立時(1974年):1,000円、76年:2,000円、78年:2,500円、86年:3,000円、87年:3,500円、95年:4,000円。今日まで30年間据え置き。
2. 会費収入額の推移、1987年以降2004年までは60～70万円で推移。2005年以降60万円を割り、2003年には40万円台に落ち込む。
3. 支出総額に占める会費収入の比率は、2004年頃までは70～90%を占めていたが、その後一時期を除き低下が続き、約3分の1程度。次期繰越金の減少。

#### 〔検討課題〕

1. 「賛助会員」制度
2. 会費額
3. 「郷土史研究会ニュース」の有料化(会員以外)
4. その他

#### 〔委員会の構成および期間〕

1. 役員および会長経験者(必要に応じて理事・会員)
2. 2025年度末までに方向性を出し、来年度総

会に諮る。 ※必要に応じ会則の改正も検討

### 議題6 令和7年度役員

本年度は改選期ではありませんが、ご逝去された方や退会された方がおられるため、一部任務分担を変更しました。

会 長	赤木 達男	会務統括、渉外
副 会 長	今田 幸博	会長補佐、郷土史展
	福村 博士	会長補佐、歩く会、新春の集い
顧 問	石井 康隆	
	天野浩一郎	八本松会主管
	蔵楽 知昭	図書室開放、高屋会主管
相 談 役	菅野 晃行	
理 事	国永 昭二	文化財管理
	大森美寿枝	例会委員、石造物研究会
	吉岡真喜夫	原爆資料保存研究会
	近藤 英治	古文書研究会
	光田 清志	四日市町並研究会、西条会主管
	浮田 一民	臨地研修委員会
	角谷 勉	歩く会委員
	進藤真由美	HP 編集・管理、ニュース編集
	吉井 良平	HP 編集・管理、ニュース編集
監 事	大山 圭	HP 編集・管理
	中川 平介	会計監査
会 計	谷本 操	会計監査
	三嶋 昇	臨地研修委員会
事務局長	國松 宏史	会務の運営
事務局次長	吉井 良平	会務の運営、HP 編集・管理

## 第3回石造物探訪会

國松 宏史

石造物研究会は3月15日(土)12:50～、「安芸津町三津の石造物・建造物を巡る」探訪会を実施した。参加者は13名+スタッフ5名で計18名であった。

前日の天気予報では、日中は曇りで夕方から雨とのことで、何とか雨に合わず実施できそうだと一安心していた。ところが、翌朝起きてみると本降りの雨模様である。

事前の参加申込は、西条、高屋、八本松、黒瀬、安芸津から18名あり、当日参加の方々も5名前後はおられるだろうと思っていたが、朝から電話やメールで「体調不良」のため本日の探訪会を欠席するとの連絡が次々と入った。昨年度も「高屋町白市の石造物・建造物」を巡ったが、やはり雨模様であった。屋外でのイベント

開催は天候次第だと痛感した。

参加者が揃った12:50から生涯学習センターロビーで簡単な開会式を行った。赤木会長の東広島郷土史研究会の歩みと活動内容を紹介する挨拶に続き、石造物研究会主幹で今回の解説者である船越さんが「三津地区の石造物の宝庫は「榊山八幡神社」であるが、ここを巡ると1時間は優に掛かるので本日は廻らないが、来る4月29日、本日とほぼ同じコースで『東広島の史跡文化財を見て歩く会』を開催し、榊山八幡神社を詳しく紹介するので是非参加して頂きたい」と伝えた。

コースは、榊山八幡神社神田跡～安永橋（架け替え工事中）～新興橋～柄酒造～御蔵所跡～祇園社（お旅所）～JR安芸津駅～正念寺～馬頭観音堂～正福寺～進徳海運跡～胡子神社～福寿院～今田酒造本店～蓮光寺～川田與市顕彰碑～多奈都神社～祇園町児童公園～安芸津郵便局～焼肉慶州横にある地蔵群～生涯学習センターである。

外は相変わらず雨模様である。一同は防寒対策を施した厚着の服装、雨対策のカップを着込み出発した。先導で解説者の船越さんは安芸津町内を知り尽くす人で、大通りや人ひとりしか通行できない狭い路地や生活道に引率していく。狭い路地両側には密接した家屋が並び、昭和時代の近所付き合いの密だった生活を思い出させる風情がある。

今回のコースで普段気付き難い石造物を2点紹介する。（後は4/29実施の「東広島の史跡文化財を見て歩く会」で詳しく紹介）

### 1 寄進碑

生涯学習センター前の道路を横断し、細い路地の坂道を下ると駐車場がある。その片隅に四角錐で、高さ114cmの石柱が建っている。

寄進碑表面に「永代御神田献備」、「本田助左衛門安盈文久元年辛酉五月吉日」、「世話人7名の屋号」と刻まれている。



「永代御神田献備」石柱前で解説

※献備（けんび）＝神様へのお供え

※安盈（あんえい）＝満ち溢れる

※文久元年（1861）辛酉（かのとり）五月

この碑文を読んでも、一見何のことか理解できない。御神田（おみた）とは、神社の祭祀などの運営経費にあたる領田（寺社領）のことを指し、本田助左衛門が榊山八幡神社に田圃を寄進したことを記念して建てられたものである。

現在は「榊山八幡神社貸貸駐車場」となっている。同様に、お寺に寄進した田畑は、寺田（じでん）と言われ、それぞれ租税は免除された。

### 2 川田與市氏彰徳碑

賀茂郡三津村の三浦仙三郎が、明治9年（1876）酒造業を始める。（当時30歳）しかし腐造、火落ち（貯蔵中に腐る）になるなど上手くいかなかった。“百試千改”原因が水質（軟水）にあることに気付く。温度や湿度を管理するなど合理的に実験を重ねて、明治31年（1898）に改良醸造法を完成させた。その一番弟子が川田與市である。その後、與市は、西條の木村酒造の杜氏となり、明治40年（1907）から始まる全国清酒品評会（2年毎に開催）で酒名「賀茂鶴」が最高評価の金賞を連続して受賞するなど、全国的銘柄に育てる。

三浦仙三郎が著した「改醸法実戦録」の発表は広島県酒の生みの親となり、賀茂鶴杜氏の川田與市は、後に「酒都西條」と呼ばれる西條酒醸造の礎となった。彰徳碑は没後門弟100名によって建立された。安芸津町は全国各地に杜氏を送り、「杜氏のふる里」と呼ばれている。

### 3 月例会発表まとめ

#### 安芸津を巡る見どころについて

福村 博士

3月例会は3月22日（土）13:30から、市役所北館市民協働センターで開催され、26人が参加しました。



この日は安芸津郷土史研究会の会長であり、

東広島市文化連盟安芸津文化協会顧問の矢原大和さんを講師にお招きし、4月29日に安芸津町で開催した「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」の見どころをご紹介します。

### 万葉の里・安芸津町

安芸津町は市町村合併以前、賀茂郡三津町と豊田郡木谷村に分かれていました。また風早地区は奈良時代から遣新羅使の中継地として、半島との交流の拠点となってきました。祝詞山八幡神社には、その時代に詠まれたとされる和歌3首の歌碑があり、地域のシンボルとして親しまれているそうです。

風早の保野山では、毎年11月に開催される「火とグルメの祭典 あきつフェスティバル」に合わせ、巨大な「万」が赤々と燃え上がります。この地域が万葉の時代から栄えてきたことにちなんだ試みで、昭和63年（1988）にスタートしました。実際の火を燃やすため、山火事を防ぐために周辺に水をまくなど、地域の方が努力して続けてこられたそうです。

### 広島杜氏のふる里

安芸津は「広島杜氏のふる里」とも言われます。江戸時代に栄えた港町であり、千石船をもつ廻船問屋や、広島藩が藩米を集積する御蔵所もあったことから、集まった米を使った酒造りが盛んになったようです。

集合場所となる安芸津生涯学習センター内には安芸津町郷土史民俗資料館があり、さまざまな酒造りの道具を見ることができます。

第1関所となる榊山神社にも、酒造りにちなんだ史跡が多数残されています。境内には酒造りの神様として知られる松尾大社があるほか、三浦仙三郎翁の銅像も建っています。今回の「歩く会」の最大の見どころといっても過言ではありません。

神社の敷地内には、当地出身力士の安芸乃島関の碑があり、本人の手形が残っています。実は安芸乃島関は矢原さんの元教え子。当時はたいへんなわんぱくぶりだったそうですが、力士を目指すようになってからは見違えるように立派な生徒になったとのことでした。

第2関所の蓮光寺では県指定の大銀杏をはじめ、孝子与翁の墓、三浦仙三郎の墓などを見られます。そのほかの関所や立ち寄りスポットも酒造りに関連するものが多く、説明をお聞きしていると、安芸津がいかに日本酒と深く関わっているかを実感できました。

また各関所の史跡の見どころに加え、今回の歩く会では訪れない安芸津町内の珍しい史跡や名所などの魅力も、パワーポイントでわかりや

すく、時には楽しくご紹介いただきました。

### 地域の方々の協力のもとで

これまでの歩く会の開催地は旧東広島市域の4町に限られており、新市域での開催は今回が初めての試みです。それを無事開催できたのは、安芸津郷土史研究会をはじめ、地元の方々のご協力があったからこそです。この日の講演で、会員の理解もより深まりました。

「歩く会」当日の様子は、また改めてニュースでご報告いたします。矢原さん、この度はご登壇誠にありがとうございました。

## 第7回昔の道探訪会

### 塩田で栄えた・安芸の小京都・竹原めぐり

進藤真由美

昔の道探訪会は令和7年3月12日、「たけはら町並み雛めぐり」というイベントを開催中の「たけはら町並み保存地区」を訪ねました。

同地区は昭和57年（1982）に「国重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」に選定されており、電線や雑多な看板がなく、石畳と格子戸の風情ある町並みが楽しめます。

「道の駅たけはら」から重伝建地区に歩いていくと、多くの家の軒先に季節の花や竹飾りが並んでいました。観光客に対する地元の方のおもてなしだそうです。

### 旧笠井邸の雛人形

まず向かったのは旧笠井邸です。塩田経営者として成功した「浜だんな」の家で、明治5年（1872）に建てられました。

低めの格子戸をくぐって室内に入ると、錦の衣をまとった無数の雛人形たちが目に飛び込んできます。

雛めぐりの開催期間中は、宮付きの豪華な七段飾りから木彫りの素朴な夫婦雛まで、邸内にありとあらゆる雛人形が飾られていました。江戸時代に作られた歴史のある雛人形も多く、時代を経て色のくすんだ衣の趣が、古い町家とよく合っていました。



たくさんさんの雛人形に囲まれて

## 町並みが一望できる普明閣

次に向かったのは浄土宗の寺院・西方寺。まるで城のように急峻な石垣の上に建っています。濃い桃色の枝垂れ梅が、門の横で満開を迎えていました。

本堂横の高台に位置する普明閣は、宝暦8年(1758)に建立されたものです。市の重要文化財に指定されているにも関わらず、私たちも気軽に入ることができました。



普明閣から竹原の町並みを見下ろす一行

清水寺を模して2階部分が張り出した舞台造りになっており、そこからは遮るものなく、竹原の町並みが一望できます。広々とした景色に、一同から歓声が上がりました。

高い場所から見下ろすと、黒い屋根瓦の立派な町家がとても多いことがわかります。竹原が江戸時代に製塩業で栄え、さらに廻船業や酒造業でも繁栄した名残だそうです。

屋根が盛り上がったような形に葺かれている「起り屋根(むくりやね)」の町家「旧松阪家住宅」もありました。起り屋根には耐震性や風通しの良さ、美しさ、防水性能などさまざまなメリットがあるそうですが、なめらかな曲線を出すには職人の高い技術力が必要。往時の竹原商人にとって、起り屋根はそんな職人を雇える財力の象徴だったのかもしれませんが。

### 頼惟清旧宅

町並み保存地区には「日本外史(にほんがいにし)」の著者・頼山陽(らいさんよう)の祖父である頼惟清(らいただすが)の旧宅もあります。県の史跡に指定されており、個人所有ですが自由に邸内を見学できます。この日はそれぞれの部屋に、生け花と小さな雛人形が飾られていました。

惟清は教育熱心で、息子3人はいずれも俊才で知られたそうです。山陽はここに住んだことがありませんが、後を継いだ叔父のもとを何度も訪ねたことがあるといいます。学問の話に花を咲かせることもあったのでしょうか。

帰り道では町並み保存地区の入り口にある頼山陽広場の銅像を見学しました。

町並みから受ける印象は場所によって違います。この日の散策を通して、この町が持つ上品な印象が、製塩業で栄えた時代の面影だということが実感できました。

※外史：民間による歴史書

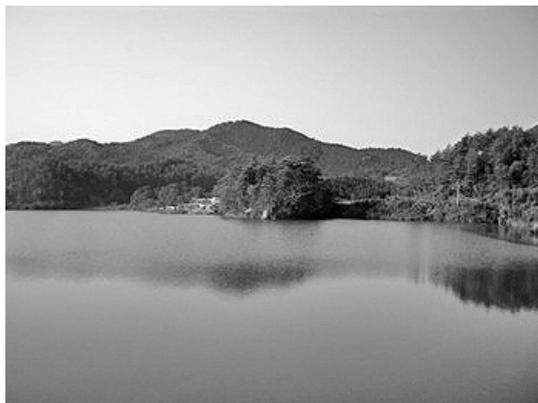
## 小野池の歴史(志和町別府)(1/2)

吉本 正就

### ■小野池の碧水(へきすい)

明和2年(1765)今から260年ほど前、黒川三郎左衛門によって、別府の小野が原に灌漑用としての池が造られ、昭和25年11月、現在の堤体・拡張工事が完成。

11.5ヘクタールの水面を持つ大きなもので、写真のように周りの山々を湖面に映し、見事な風景と静けさを保っている。



西志和は2000年程前に稲作が始まったと考えられるが、その地区は定かでない。作物を作るには水と肥沃な土地が必要である。この条件を備えている場所の一つは小野池水系の別府地区である。

その場所と思われる場所の一部は、別府の法蔵寺跡(地蔵堂がある)付近である。この地区は残念ながら、令和6年春に改修(新しく道路が敷設)され、古くから使われていた大きな自然石の水路(用水路)が失われた。



西日本豪雨災害で流入した土砂

この水路が小野池水系の水を使っている。この小野池水系は古から水害と旱魃といった自然災害が繰り返されたと思われる。平成7年5月の西日本豪雨災害では大きな土砂崩れや河川の崩壊が発生した。



同じく西日本豪雨災害で崩壊した小野池下流河川

### ■災害の歴史

志和に人が住み始めたのは、おそらく2000年以上前であろう。その間には災害、飢餓、悪疫など数えきれない多くの災害があつて、多くの損害や犠牲者を出して来たに違いない。しかし、遠い過去のことは資料もなく、今になってそれを探ることは出来ないが、近世以降の記録にあるものを集約してみた。(志和町史、志和郷土史年表より)

災害	数	特記
洪水	18	天保8年、不作で葛の葉など食べた
悪疫	11	コレラ、赤痢が流行し死者が出る
旱魃	8	水不足で田植が出来ず
暴風	12	お寺など倒壊がでる
台風	5	
凶作	9	明治2年は豪雨で稲実らず収穫1割など
飢饉	12	天保2～8年まで続く
地震	6	嘉永4年強震断続数日に及ぶ
火災	5	お寺の火災が多い
虫害	1	ウンカによる大虫害
大雪	2	
竹結実	2	竹に実がなって枯れる
豪雨	1	昭和40年、被害額3億5千万円
牛疫	1	東志和村に発生

長い歴史のなかで、上の記録からみて洪水、暴風はさることながら、志和では飢餓、飢饉が絶えず繰り返して起きた事だと思われる。

明和2年に、この小野が原の現状に目を付け改善するの必要を察した人が村利民福を心情とした黒川三郎左衛門である。

志和東村の庄屋や割庄屋を歴任し生涯にわたって各地で治水事業の設計・施行に携わった。その功績をつぎに示す。

### ■黒川（河）三郎左衛門

(東志和村庄屋・現：東広島市志和町東志和)

志和町史には黒川三郎左衛門を政治家として紹介している。

ここにその一部を記す。

黒川三郎左衛門吉則は享保8年志和東村長松河屋家で生まれた。幼名を彦六と云い、夙(つとに)村利民福を計るを自分の使命と考え幾多の功勞をたてしばしばに賞を受けた。文化2年5月3日82歳で卒した。

◎明和2年別府村小野原池を築造して旱損地に多大の便利を与えた。付近の住民今尚其の徳を仰ぎ毎年追弔法会を営み、特に旱魃に際しては米や金を醸出(きょしゅつ)し、黒川家の仏壇に具え礼拝して帰るを常としていた。藩庁から其の功を賞せられ米十俵を賜わった。

◎安芸郡温品村川筋の田地に砂がはまり稲の作付けができなくなったので、公儀から救済するよにとの命を受け、種々工夫して稲の耕作が出来る田地とした。

◎群辻用村等力を尽くして社倉法を設けた。これ等抜群の行為に対し褒美として鳥目百疋、二百疋、二貫文と度々下付された。

◎志和堀村有谷池、東志和村長松小十池を築造し、水路を設けて農耕を盛んにした。

◎其の他溜池水路等氏の計画によるものは頗る多かつた。

事績(履歴)は年表を参考にしてください。

### 西志和村大字別府郷土誌所載の原文

(地元の住民が三郎左衛門に感謝の意を表わしたことがわかる)

小野か原池は新庄平山北麓の溪谷にありて大中小の3個あり。大は1町九反2畝6歩(外に2反3畝19歩堤防)、中は1町4畝26歩(外に1反2畝23歩堤防)、小は5反4畝16歩(外に9畝19歩堤防)にしてこの灌漑耕地約90町歩あり云々。

斯る民福を計画したるものは抑々誰なるか、伝云う。今を去る事百有余年前志和東村の住人に黒川三郎左衛門という人あり。

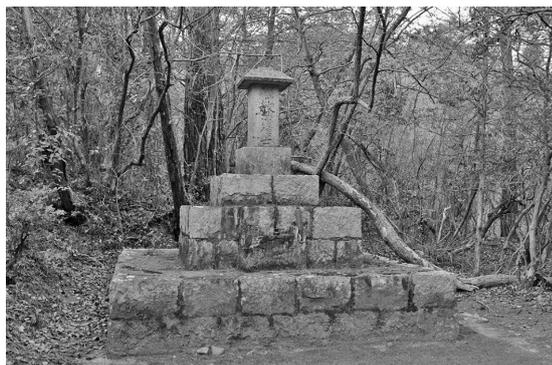
新庄平山は此の付近第一の赭山(あかつちやま)にして水源に乏しく頻年旱害に罹(かかる)を憂え独り自ら実地を踏査し或いは生城山より水準を測り苦辛経営遂に羊腸たる溝梁を山腹に穿(うが)ち深く谷に入り又丘に出て東に繞

(めぐ)りて更に西南に迂廻し山麓一体の耕地に灌漑の便を与えたりと、農家其の恩沢に頼り旱害を免れる。人々其恩徳を仰ぎ今に至るまで年々追弔を営み花香を供す。

安芸郡府中村大須新開の河流堤防も亦本人の計画に関するものなりと云う。

同人の石碑は貞岡八幡社の上丘溝梁の側にあり。

#### 黒河三郎左衛門の報徳碑文



此郷水乏而常為早損之患矣  
干時黒河三郎左衛門吉則君  
平高岸埋深谷山之半陽穿石  
鑿溝數里鹿而作陂終除此患也  
郷中慶賞常慕其功烈勲勞矣  
享年八十有二以文化二年五月  
三日卒我輩哀悼靡所實其念永  
伝子孫為令知其恩刻石記功

庄屋  
太良右衛門  
同役  
吟兵衛  
組頭  
増右衛門  
茲願主  
上別府郷中

「平高岸～此患也」の部分、「切り立った崖を削ってならし深い谷を埋め、山腹の岩に穴を開けて数里に達する溝を通したことで、患(干ばつ)が除かれた」という意味であり、まさに、この用水路の特徴をよく表している。なお、この碑の土台にも文字が彫られており、三郎左衛門の遺徳に感謝するため、昭和13年(1938)4月に土台を改築したと刻まれている。

#### 三郎左衛門の履歴

西暦年	年 号	事 柄
1723	享保 8 年	誕生
1748	寛延元年 2 月	東村庄屋
1758	宝暦 8 年 8 月	割庄屋
1765	明和 2 年	小野池の築造
1777	安永 6 年	割庄屋を退職
1784	寛政 5 年	庄屋36年間在職
1805	文化 2 年 5 月 3 日	死亡 享年82歳
1810	江戸時代	報徳碑建立(推定)
1938	昭和13年 4 月	報徳碑土台改築

この履歴からも、心情を村利民福とした人生

82年であったことが分かる。

多くの事業が治水事業に関係している。人間が生きてためには水が大事と考えた事だろう。多くの人に幸せを提供したに違いない。

三郎左衛門は地元である東志和の光源寺境内墓地で行く末を見守っている。

#### ■森田濱之介の頌徳碑

(昭和12年1月、水子一同建立)

二宮神社の参道と用水路が交差する地点に用水路を管理・保守していた森田濱之介氏の頌徳碑が建立されている。カタカナ交じりの文の碑文を紹介する。



#### 碑文

「森田濱之介翁資性豁達率先衆ヲ説キテ公共ノ為ニ企画スル所多シ故ヲ以テ区长ニ推サレ区會議員村會議員挙ゲラレルハコト數回ニ及フ其ノ間善ク部内村地ノ整理ニ務メ信頼最モ厚シ殊ニ家祖ノ業継ギ幾十年來小野池樋守トシテ水路ノ修理内堀ノ指導督励ニ努力セラル、コト終始一日ノ如ク以テ干害ノ憂ナキヲ致ス其ノ功績ノ顯著ナル水子ノ感称措カサル所乃チ相議リ茲ニ碑ヲ建テ其ノ勞ノ一端ニ報ユルト共ニ永ク其ノ美德ヲ護(わす)レサラントス

昭和十二年一月 小野池水子一同」

これら二つの碑から、別府地区の人々にとって用水路がかけがえのないものであることがわかる。また、昭和初期においても水が重要であり、用水路を造築した方や維持管理した方を手厚く敬っていたこともわかるのである。

#### ■開発をたどる

##### 明和2年(1765)「このがはら」に池を築造

黒川三郎左衛門は西志和地区の旱魃、洪水被害の実情を踏まえて木のが原(小野池)池が必要と考え、明和2年に築造する。その用水路を

造るにあたり、生城山から用水路の勾配を割り出し敷設したとある。

水路は今もその様子を残している。

### 伊能忠敬の小野池

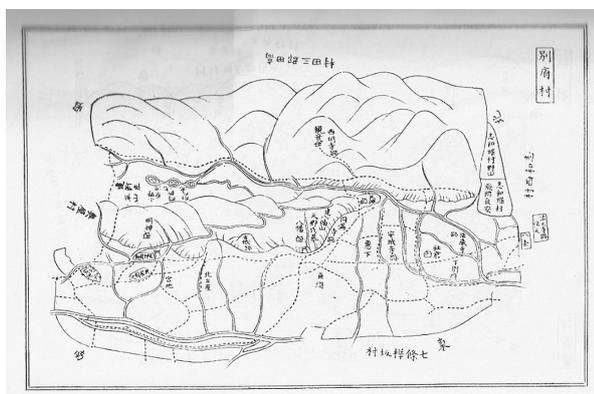
忠敬は文化10年（1813）11月に、小野池がある吉舎街道の別府地区を測量している。

「右ニ溜池上下二段ニアリ 字木ヶ原池 大池上池周三町斗」とあり、「このがはら」と当時から呼んでいた。

「木ヶ原池」と書き留めたのだろう。

したがって、1813年の時点で2つの池があったことがわかる。

### 「藝藩通志」の別府村の絵図



文政2年（1819）に完成した別府村の絵図

この別府村の絵図では上流から「小野が原池」「同新池」「同大池」と三つの池が描かれている。

三郎左衛門が山腹に敷設した用水路も描かれている。その素掘りの用水路が残る横に黒川三郎左衛門の報徳碑が別府の貞岡神社から少し山手上がったところにある。

現在はこの3つの池は昭和25年に造築された拡張工事の底に沈んでいる。

（小野池の歴史（志和町別府）（2/2）に続く）

### 東広島市郷土史研究会連絡協議会

#### 講演会の案内

日時 5月18日（日）14:30～  
場所 東広島市総合福祉会館3Fホール  
演題 「地形と郷土史の融合を考える」  
講師 広島大学大学院 熊原康博教授

### 【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

### 【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

### グループ研究会ご案内

#### 第296回 古文書研究会

とき 5月20日（火）13:30～  
ところ 市役所北館 市民協働センター  
テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村④

#### 第193回 石造物研究会

とき 5月27日（火）13:30～  
ところ 市役所北館 市民協働センター  
内容 今後の活動計画について

#### 第193回 四日市町並研究会

とき 5月12日（月）10:00～  
ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵  
内容 「酒都西條」について

#### 昔の道探訪会（旧山城探訪会）

とき 5月14日（水）9:30～  
ところ 西高屋駅2階「あったかや図書館」  
内容 西高屋駅周辺の移り変わり

#### 原爆資料保存研究会

とき 5月17日（土）13:00～  
ところ 市民文化センター2F 原爆資料展示室  
内容 原爆展の企画展、イベントについて

#### 5月の図書室開放

とき 5月16日（金）13:00～15:00  
ところ 高屋教育集会所

### 会計担当および役員一同からのお願い 会費納入にご協力ください



令和7年度がスタートしたため、先月のニュースに年会費の払込用紙を同封いたしました。例会で現金にてお支払いいただくことも可能です。滞りなく会を運営できるように、皆様に会費お支払いのご協力をお願いいたします。

### ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第609号

令和7年（2025）5月5日発行  
編集・発行 東広島郷土史研究会  
会長 赤木達男 TEL(082)423-7235  
E-mail:akata@akata.d4.dion.ne.jp  
事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234  
E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp  
会報編集 進藤真由美 TEL 090-2860-0177  
Email:m.shin.pasha@gmail.com